

令和 6 年度 東京都立東久留米総合高等学校 全日制課程 学校経営報告

1 今年度の取組目標と自己評価

目標 1 キャリア教育

- ① 総合学科高校としてのキャリア教育の充実を図るため、「25歳の自分創り」のテーマを全教職員で共有し組織的な取り組みを進めた。生徒に自己理解を深めさせ、一人一人の可能性を最大限に引き出すため、指導計画の更なる充実と共有化を進めたい。
- ② 1年次の「産業社会と人間」では「自分探し」を、2年次の「人間と社会」では「社会との関わりから具体的に考える自己実現」を、3年次の「課題研究」では「未来の自分と夢実現ための探究」と全校体制での組織的指導を向上させるため、3年間の体系を整理し共有化を図った。プレゼンテーションや職業人インタビュー、小論文指導を通じて自ら考え表現する力を身につけた。今後、3年次の課題研究へ向け系統立てた授業計画になるよう一層の工夫を重ねていく。
- ③ 課題研究のより一層の充実に向け、早期の導入と意識づけを行い、外部との連携をさらに深め、今後のキャリアにおいて自身の強みとなるよう支援した。外部との連携については時期や内容をより精査して協議を重ねた。小論文指導では文字数の負担と表現力の向上、プレゼンテーション指導とのバランスを取り、指導の充実に繋がった。東京都高等学校総合学科教育研究会成果発表会では代表生徒の発表が注目された。良い実践例を続く学年の生徒へ生かし、全体のレベルを向上させたい。
- ④ 新教育課程の選択科目を、総合学科らしい内容として精査した。教務部とキャリアデザイン部の連携により履修指導の充実を図った。履修状況をさらに分析し、選択科目講座の配置等を精査し、希望する科目が選択できない生徒を減らしていく。
- ⑤ 進路関係の校内研修を3回実施し、進路情報の共有や模擬試験の結果等の組織的な分析・活用について、有意義な研修となった。今後も生徒の進路実現のため、全教員による組織的な進路指導体制を構築する。
- ⑥ オンライン個別学習等を用いてキャリア教育の充実を図った。また、基礎学力向上に向けて、模擬試験の実施・分析した結果を活かし、より組織的な指導を目指す。
- ⑦ 学習支援クラウド等を活用し、生徒の活動実績などを蓄積し、キャリア・パスポートの充実を図った。生徒の学習・指導の改善や高大連携に効果的に活用できた。

数値目標達成度（今年度実績/目標値） 国公立大学⇒1/1人、難関私立大学⇒1/1人、GMARCH⇒5/5人、成成明武⇒21/10人、日東駒専⇒39/20人、公務員⇒0/4人、進路決定率⇒88.9/95%

目標 2 学習活動

- ① 生徒の実態に応じて、主体的・対話的で深い学びを効果的に実践し、協働的な学びを推進した。考えさせる授業実践の結果か、断定はできないが、推薦入試での合格率は、94%と昨年より4ポイント向上した。一般入試の実績も向上した。
 - ② ICT機器や生徒一人1台端末を活用し、個別最適な学びを推進し、より効率的で効果的な授業展開を目指したが、一層ICTの活用率にはまだ課題を残した。
 - ③ 生徒による授業評価を実施しているが、その結果を授業に反映させているかは精査が必要だ。学校評価アンケートでの「本校は、生徒の学力向上のために教材などの工夫を凝らした授業を行っている」かについては、肯定的な回答は58%、「本校はしっかりと学力が身につくような指導がなされている」かについては57.3%という結果だった。今後も一時間一時間の授業を大切に、教材研究等の自己研鑽を進めていく必要がある。
 - ④ 若手教員育成研修や中堅教諭資質向上研修、全定合同授業相互見学の機会を通じて、全教員の授業力向上を図った。特に全定合同授業相互見学の機会には有意義な取り組みだが、参加者が伸びていない。参加者を50%に増やしていきたい。
 - ⑤ 生徒のキャリア実現のための、長期休業中における講習をすべての年次で実施した。2週間前指導も定着している。放課後等の講習・補講の活性化を図っていきたい。
 - ⑥ 英語力向上のため、英語4技能テストの1年次生・2年次生全員受験を実施した。
 - ⑦ 定期考査は、原則同一講座を共通問題とし、同一講座担当者間での教材の共有化を推進した。一部講座間の調整に難航したケースもあったが、立て直しに取り組んだ。
 - ⑧ 採点システム等を活用しながら効率化を図り、全教科において3観点に基づく評価を実施した。今後講座間での評価の調整をさらに進めながら、より指導と評価の一体化を目指す。
- 数値目標達成度（今年度実績/目標値） 実用英語検定（人数）⇒2級（38/20）、準2級（39/60）

目標3 生活指導

- ① 社会人としてのマナーやTPOについて、理解を深めさせ、適切な判断ができるよう指導した。登下校時のマナーについては、近隣からの声もあり、より改善の必要がある。
- ② 頭髪や服装等の身だしなみ指導を徹底し、生徒の規範意識を向上させてきたが、全校体制となるには一層の協力が必要である。
- ③ ノーチャイム制により時間を守る習慣づけは進んでいる。期限を守ることの重要性についても理解を深めさせているが、一部に課題を残している。一層自律的な行動の意識向上を図る必要がある。
- ④ 教育相談委員会を時間割内に設定し16回開催した。セーフティー教室も含め、生命尊重の態度を育成し、日常の生徒観察とポジティブな声掛けを行い、生徒情報の校内共有体制と生徒からの相談体制を充実させる事ができた。気を抜くことなく、一層スクールカウンセラーや外部機関との連携も深めながら生徒の生命を守っていく必要がある。
- ⑤ 暴力や体罰の禁止・根絶について、校内研修を通じて学校全体で共有・徹底し、安全で安心な学校を維持することができた。引き続き注意深く取り組んでいく。
- ⑥ いじめ対策について、いじめアンケートを年3回実施し、生徒の言動・行動に注意を払い、

組織的な情報共有を通して、未然防止・早期発見・早期対応に努めた。

- ⑦ 安全教育プログラムに従い、セーフティー教室などを実施し、危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力の育成に努めた。また、互いの人権を認め合い、自他の生命と人権を尊重する態度を育くんだ。

数値目標達成度（今年度実績/目標値） 年間遅刻延べ回数⇒5, 336回/3, 000回以下

目標4 特別活動

- ① 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させた。生徒にも自主性を重視する姿がはっきりと表れており、良い校風となっている。
- ② 体育祭、文化祭、合唱コンクール、球技大会などの行事でも、昨年度の成果をベースとし、生徒の主体的な活動が活性化しており、今後も自律した運営が推進されるよう指導・支援していく。
- ③ 週当たり2日以上の子休養日を設ける（平日は少なくとも1日、週休日は少なくとも1日を休養日とし、休養日が確保できなかった場合は他の日に振り替える）ことが近い日程で調整できていないケースが見られる。引き続きガイドラインに沿って1日の活動時間を守り、公式戦参加等を除き土日連続の部活動実施にならないよう指導していく。部顧問の指導体制についても、土日祝の活動の担当に、可能な限り偏りのないよう調整する。
- ④ 令和6年度も「Sport-Science Promotion Club」の指定を受け、外部機関と連携してデータを取り、スポーツ志向を醸成し、体力の向上と競技力向上を推進した。また、部活動外部指導員を積極的に活用した。追加予算を得る機会があれば活用し、部顧問の負担軽減を図る。
- ⑤ 国際交流リーディング校としての実績を踏まえ、海外学校間交流推進校として活動の活性化を目指した。生徒のニーズを把握し旅行業者との連携を深める必要性があった。海外の高校との交流を推進するため、新分掌グローバル教育部を設置し、取り組みの透明化と推進力の向上に繋げる。それにより豊かな国際感覚の育成等、国際理解教育の充実を図る。

数値目標達成度（今年度実績/目標値） 部活動加入率⇒90.4%/100%

目標5 保健活動

- ① 学校保健計画を立案し、学校全体で生徒の健康づくりに取り組んだ。健康・安全指導及び怪我・疾病、アレルギー等に対する対応の充実を図るため情報共有を図った。
- ② 感染症への対応は、消毒液などの予防対策を維持し、状況の変化に対応できるようにした。
- ③ 管理職、特別支援コーディネーター、保健相談部、生活指導部、各年次、スクールカウンセラーからなる教育相談委員会を2週に1回定期開催し、生徒情報を共有し、対応を検討した。
- ④ 特別な支援を必要とする生徒について、関係機関等との連携を図りながら対応できるようにした。

目標6 広報活動

- ① 全職員が総合学科である本校の特色と魅力を理解し、「ここで私をデザインする」をキャッチフレーズとして統一し、学校全体ですべての広報活動を組織的に実施した。中進対倍率は昨

年 0.95 倍であったところ 1.2 倍を目標に掲げ 1.29 倍となった。

- ② 学校見学会、学校説明会、都立合同説明会、個別相談会、授業公開、出張授業、体験授業等を、総務部の統括の下、経営企画室を含めた全教職員体制での計画的・組織的な運営に取り組んだ。来場者数は令和 5 年度 3,950 人に対し令和 6 年度 2,326 人と減少したが、応募倍率は好調だった。参加した中学生の受検率は高いとも考えられる結果になった。
- ③ 学校案内の編集や学校見学会、学校説明会は、広報委員生徒による主体的な運営により生徒の魅力が伝わるよう、指導・支援する一方、教員からの説明も聞きたいという声があったため、教員と広報委員生徒委員によるバランスを取った。
- ④ 夏季休業中を中心として、通学圏内の中学校訪問、塾訪問は実施できなかったが、中学校の上級学校説明会等に積極的に参加した。負担軽減と応募状況のバランスは取れたと考えられる。
- ⑤ 部活動や生徒の様子を中学生に理解してもらうために、体験部活動を組織的に行った。
- ⑥ 中学生とその保護者への授業公開は、土曜授業時で年 3 回以上実施した。
- ⑦ ホームページの更新頻度は向上しなかったが、公式インスタグラムの閲覧数は伸びている。今後も SNS や動画等のコンテンツの充実を図る。

数値目標達成度（今年度実績/目標値） 入学者選抜推薦募集倍率⇒2.78 倍/3.0 倍、
1 次募集倍率⇒1.42 倍/1.20 倍、来校者数⇒2,326 人/4,000 人以上、
ホームページ更新回数（全定合同）⇒190/500 回

目標 7 学校間連携や地域との連携を図る

- ① キャリア教育や進路指導において、上級学校と連携を密にして生徒の希望進路の実現を図った。新たに嘉悦大学との高大連について提携した。
- ② 地域の小中学校や施設・団体等との連携を積極的に行い、地域に信頼される学校を目指す。教員が近隣小学校の行事に参加し、近隣中学校の運営評議員として関わるなどした。また、生徒が近隣保育園での保育体験に参加するなどした。今後も機会を増やしていく。
- ③ 年 4 回の避難訓練等で、東久留米消防署・東久留米市役所・日本赤十字社・地域の防災組織等と連携した。生徒の防災安全意識の向上を図り、地域防災安全の役割を担えるよう、地域との合同防災訓練の実施を目指す。
- ④ 学校施設開放計画を東久留米市教育委員会や地域スポーツ団体との協力をもって作成し、管理・運営した。サッカーやテニスの団体への開放を実現している。

目標 8 学校経営・組織体制（ライフ・ワーク・バランス）

- ① 企画調整会議を機能させ、分掌会議との双方向性を維持し、確実な情報共有をすることにより、全教職員の経営参画意識を高めた。企画調整会議終了後、平日 2 日以内に分掌内回覧完了は概ね達成できた。
- ② 分掌間及び教科・定時制との連携等、校内の調整を図ったが、労働時間の短縮については課題を残している。
- ③ 分掌や教科等の計画的で組織的な業務遂行によって、効率化による労働時間の短縮を図ったが、残業が多く発生しており、根本的な解決はできていない。

- ④ 長期休業期間を「年休取得促進期間及び定時退庁促進期間」とし、超過勤務時間の縮減を目指したが、P R 不足だった。継続的な取り組みとする。
- ⑤ 分掌や教科等において、新規採用者に対し計画的・組織的にOJTを実施した。
- ⑥ T A I M S ポータルを有効活用し、校内の情報伝達及び共有を迅速かつ確実に行うことにより、業務の効率化を図った。
- ⑦ 服務事故を根絶するため、校内研修によりサービスの厳正を徹底し、学校運営の適正化に常時努めた。学校評価アンケートなどによる生徒や保護者の声も注視して、積極的に対応していく。
- ⑧ 全定の連携によるスムーズな学校運営を図るため、副校長間で連携し、常に1ヶ月前までに行事予定等を調整し、効率的な施設の活用と、安心して安全な生徒指導体制を構築した。年間行事予定も全定統合版を作成し、連絡会を必要に応じて開催した。

目標9 経営企画室体制

- ① 学校経営計画や予算編成指針に基づき、課題意識を常にもち、積極的に学校経営に参画するよう努めた。限られた予算を計画的・効果的に執行するようスケジュール管理をした。
 - ② 学校の総合窓口として電話対応や来校者に対して、丁寧な対応ができた。
 - ③ 業務全般を理解するとともに、教員と連携・協力しながら業務を遂行して、担当部署のスキルアップを図った。また、委託業者の職員（環境整備職員）等との報告・連絡・相談を密に取りながら、学校教育に支障のないように連携を図り、学習環境の改善に努めた。敷地内に未整備箇所が残っているので、環境美化を進めたい。
 - ④ 学校広報活動には積極的に参画し、要覧及び学校案内等の作成に教職員と協力できた。
- 数値目標達成度（今年度実績/目標値） 一般需要費のセンター契約集約率⇒49%/50%

2 学校評価アンケートの概要

学校評価アンケートについて、評価の実態が分かるように、生徒、保護者、教職員への質問を20問、地域へのアンケート項目を10問にしている。

- (1) 地域へのアンケートでは、設問1より、「本校の教育活動が周知・理解されている」についての肯定的な回答は28%から6%へ大幅に減少している。設問2の「学校行事を参観したいか」は89%から22%に激減している。設問9の「地域の行事などに協力的か」も低い値であり、ホームページやSNSなどで本校の教育活動を情報発信するだけでなく、地域の取り組みに参加していく必要性が高まっている。また、設問6では「本校の生活指導へ共感できるか」に対する肯定的な意見の合計は昨年の1/3相当の22%まで減少している。自由記述欄でも生徒の登下校時の歩行マナーや自転車マナーなどの問題が指摘されている。設問8の「本校の進路指導が適切か」についても昨年より減少し、16%に留まった。中学校の先生方からの回収が多かったことから、本校の進路指導について伝わっていないと受け止めることができる。
- (2) 生徒アンケートの回収率が92.7%と、昨年度とほぼ変わらず。この数値は少なくとも維持していく必要がある。設問1は「学校満足度」の指標としている「入学して良かったか」だが、3学年の平均値で肯定的な回答は63.3%が65%に留まった。これは一般的な学校評価アンケートに比べ低い値である。まずは80%台を目指すべきである。

授業満足度の指標としては設問3「教材などの工夫を凝らした授業」と設問5「わかりやすい授業」を合わせて見ている。こちらはさらに低く、昨年度59.8%が57.8%と下がった。授業評価アンケートも振り返りながら授業改善を進める必要がある。

進路指導満足度としては設問17「キャリア教育に力を入れている」を指針としている。こちらは昨年度83.3%から今年度77.7%に下降した。2年次の反応を分析する必要がある。

設問10の生徒が「特別活動に積極的に取り組んでいる」かもやや下降して74.7%。18期生が2年次で下降した様子が見える。生徒の自由記述も授業に関するものが多くみられる。教員間でも共有し、より良い指導につなげていく必要がある。

- (3) 保護者アンケートの回収率は40%であり、昨年度の30%から上昇した。Classiによる回答を求めたことが効果的だったか。設問1「子供を入学させて良かった」についての肯定的な回答は昨年度の85.7%から81.7%へと下降しつつも、生徒の回答よりは高い値を得た。設問7「しっかりとした学力が身につくような指導がされている」かについて、昨年度50.3%がこちらも46%に下がっている。家庭での学習時間や成績に反映するような形で指導の在り方が伝わることを望まれる。

設問2の「学校経営計画に基づいた特色ある学校づくりが進められているか」についても、79.3%から73.3%に落ち込んでいる。こちらについては校長の発信力・指導力が問われていると受け止めている。

設問9「本校の生活指導は、基本的な生活習慣を確立し、社会的なマナーや常識を身に付けさせてくれる」かについては、70.3%が61.7%へ落ち込み、さらに設問11「本校の生活指導に共感できる」かでは、65.3%から66.3%へとほぼ変わらず。

設問19「子供の希望する進路の実現はうまくいくと考えている」かは、全体を比較すると64.3%が61.7%という変化だが、2か年合わせて1、2年と3年とで比較すると、54.5%から80%となり、3年次で進路指導や生徒の取組みが具体的になるに合わせ、期待値や満足度が上がっていると受け止めることができる。

保護者アンケートでは自由記述の回答数もその内容の重みもあり、本校の教育に強い関心を寄せていただいていることが伝わってくる。それぞれの疑問点やご指摘に対し応えていけるよう、関係者皆が内容を受け止め一つ一つ改善に努めていく必要がある。

- (4) 教員アンケートの回収率は80.9%（昨年度91%）であった。まずはこのことが課題である。設問5「生徒の希望進路に対応した教育課程が編成されている」かについては肯定的な回答は44%から26%に下降している。設問10「生活指導は基本的な生活習慣を確立し、社会的マナーや常識を身につけさせるものになっている」かについては41%から22%に大幅に下がり、合わせて否定的な回答は22%から37%と上昇している。合わせて設問12「私は積極的に生活指導を行っている」かについては肯定的な回答は59%から43%に下がっており、教員の中にも生活指導の考え方に幅があることを認めつつも、調整し指導の目線を合わせていく必要がある。

問11「生徒は特別活動に積極的に取り組んでいる」かでは合計が67%から33%に大きく下がっている。設問14「私は折に触れ生徒に進路の動機付けを行っている」かについては

81%から79%に下がっており、設問16「私は生徒のキャリア実現のためには授業改善や講習などの取り組みが必要だと思う」でも76%から62%に下がっている。様々な要素が関係するが、本校の指導のあり方が学習面でもキャリア教育の面でも、生活指導の面でも、生徒や保護者の期待や要望に応え、生徒の成長を支えるために、一層の改善や工夫、経営努力が必要だ。本校の長所を活かし、課題を克服し、生徒の進路実現の可能性を広げていくために、全校体制で足並みをそろえていくことが課題である。また教員が生徒と関わる時間を増やし、生き生きと働くために業務について少しでも整理していく必要がある。

3 次年度以降の課題と対応策

(1) キャリア教育の充実

- ① 総合学科高校として、生徒一人一人が「ここで私をデザインする」ことができるよう、様々なキャリア教育に係る指導に、全教職員が関わり、共有して、組織的に行う必要がある。生徒の可能性を最大限に引き出すため、1年次の「産業社会と人間」、2年次の「人間と社会」、3年次の「課題研究」と3年間にわたるキャリア教育の体系化の検証を進め、より充実させるとともに、各教職員が中学生への募集の働きかけから在校生の進路決定まで関わることで、一貫した本校の教育あり方に各自も責任を持てるような仕組みを作る必要がある。本校のキャリア教育について校内での共有化を図り、進路行事・講演会・説明会・体験活動等をより充実させるなど、全校体制で組織的に指導する。
- ② 課題研究のより一層の充実に向け、早期に意識づけを行い、外部との連携をさらに深め、今後のキャリアにおいて自身の強みとなるよう支援していく。特に推薦入試において、第一志望校へのチャレンジに活用することを想定して指導することを徹底していく。
- ③ 新教育課程の選択科目を、より総合学科らしい内容として充実させ、できるだけ生徒の要望に応えることができるよう選択科目の編成について検討を重ねる。また履修指導を適切に行い、生徒の希望を実現する。

(2) 学習活動の充実

- ① 授業における対話的な活動や協働的な学びの割合はより広がっている。今後も相互授業見学や研究授業により一層研究を深め、生徒の理解や学習が定着するように、工夫を重ねていく。
主体的・対話的で深い学びの効果的実践や、指導と評価の一体化を進め、生徒の学びに向けた意識・意欲を向上させ、授業満足度を高め、学力向上につなげていく。
- ② より効果的で効率的なICT機器や生徒一人1台端末の活用を工夫する。
- ③ Teams等を活用した生徒による授業アンケートや相互の授業見学等の継続により、授業改善を行う。

(3) 特別活動（生徒の主体的活動のより一層の充実）

- ① 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を更に充実させる。
- ② 体育祭、文化祭、合唱コンクール、球技大会などの行事では、今年度の実績を基礎として、更に生徒の主体的な活動となるよう、自律した運営ができるよう指導・支援していく。

(4) 広報活動の充実

- ① これまでの広報活動を精査し、全職員が総合学科である本校の特色と魅力を理解し、学校全

体ですべての広報活動について、全教職員で組織的に関わることにより、中進対1．2倍を目指す。

② 学校見学会や学校説明会は、生徒による主体的な運営が、更に推進できるよう、指導・支援する。

③ 部活動や生徒の様子を中学生に理解してもらうために、体験部活動を組織的に行う。

④ 中学生とその保護者への授業公開は、土曜授業時に年5回実施する。

⑤ ホームページの過去のデータを精査し整理するとともに、更新頻度を向上させ、充実を図る。